

経験を学びに変える －生活文化コースの取り組み1－

菊地 紀子・桜井 正・上 憲治

Turn the experience into the learning － the first attempt of The Life Culture Course －

Noriko KIKUCHI・Tadashi SAKURAI・Kenji KAMI

Teikyo Junior College

Summary

Our life-cultural course has various extra-curricular activities such as local cleaning projects, participation in Sasa-Hata café steering committee, participation in local spring and summer festivals so on. What do we need to make these activities into deep learning? In order to make it clear, we listed up all our activities here and reported the result of our observations. We observed how students changed or matured through their own activities by watching their behavior and by reading the papers they handed in.

要旨

生活文化コースで取り組んでいる様々な活動を、単なる経験で終わらせず学びに変えるには、どのようなことが必要であるか検討するため、生活文化コースで取り組んでいる様々な活動を洗い出し、参加する学生の姿勢や態度、提出物から学生の成長を観察、記録し報告している。

1 はじめに

短期大学の目的は、「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は实际生活に必要な能力を育成することを主な目的とする」とある¹⁾。

また、就業力とは、大学設置基準²⁾によれば、「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」とされ、特に「生涯を通じた持続的な就業力の育成」は重要である。

先に示された文部科学省からの「短期大学の今後のあり方について」でも、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成を図ることが重要であると報告されている。

経済産業省が推進している産業人材施策の中に「社会人基礎力」³⁾がある。平成18年「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を図1の通り、3つの能力(12の能力要素)から成る

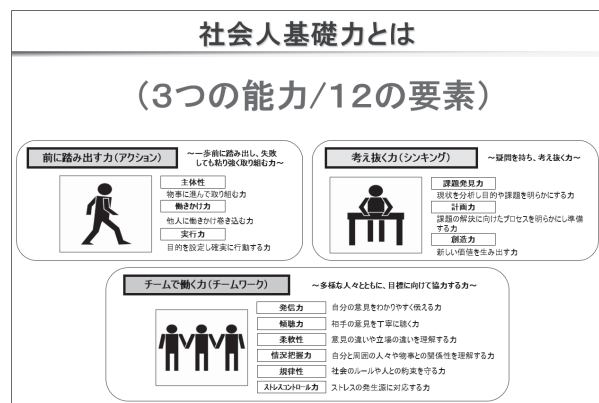


図1 社会人基礎力 (経済産業省)

「社会人基礎力」として定義づけた。この「社会人基礎力」の3つの能力の1つ目は、前に踏み出す力(アクション)、2つ目は、考え抜く力(シンキング)、3つめは、チームで働く力(チームワーク)である。1つ目の前に踏み出す力(アクション)には、主体性、働きかけ力、実行力の3要素がある。2つ目の考え抜く力(シンキング)には、課題発見力、計画力、想像力の3要素がある。3つめのチームで働く力(チームワーク)には、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力の6要素がある。

平成21年の調査⁴⁾では、「身につけてほしい能力水準」に企業と学生で大きな意識の差があることがわっている。学生自身が既に身につけていると思う能力には、粘り強さ、チームワーク力、主体性、コミュニケーション力があるが、企業側はまだ足りないと感じている。反対に学生自身が不足していると思う能力には、ビジネスマナー、語学力、業界の専門知識、PCスキルがあるが、企業側では出来ている、あるいはこれから良いという認識である。

本学生生活科学専攻生活文化コース（以下"生活文化コース"）では、就業力向上のためのカリキュラムとして、図2のとおり「キャリアルート」という

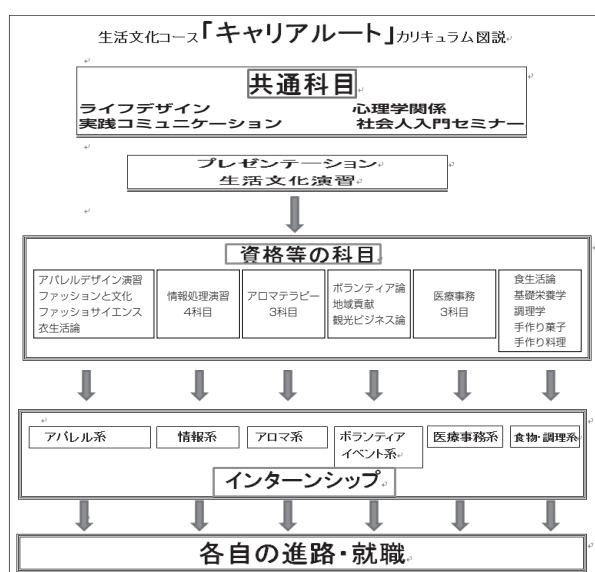


図2 キャリアルート

考え方に基づき、各自の興味・関心、将来設計を熟慮し、選択していくことができるカリキュラム構成である。

「キャリアルート」の基盤となる科目の一つである生活文化演習の中でチーム基盤型学習の一部を取り入れ、4～5人のチームを組ませ、チームワーク力やコミュニケーション力を高めるため、様々な活動を展開している。今回は、その活動について報告する。

2 研究の目的

本研究の目的は、生活文化コースで取り組んでいる様々な活動を、単なる経験で終わらせず学びに変えるには、どのようなことが必要であるかを明らかにすることである。

3 研究方法

生活文化コースで取り組んでいる様々な活動を洗い出し、参加する学生の姿勢や態度、提出物から学生の成長を観察、記録する。

4. 研究結果及び考察

活動内容には、地域清掃や花いっぱい活動のような継続的活動と、地域のお祭り参加のような単発的活動がある。

1) 継続的活動

①地域清掃

地域清掃（図3）は、地域の要請により平成15年から行われている。地域の人たちに交じってゴミを拾い



図3 地域清掃

ながら会話し交流を持つことによって、学生同士にはない目上の人との会話に抵抗がなくなっていく姿が見られる。

②ささはたカフェ

ささはたカフェ（図4）は、平成27年から始まった



図4 ささはたカフェ

新しい活動の場である。笹塚十号坂、十号通り、幡ヶ谷六号通りの商店街事務所で月1回開催される憩いの場で、地域のお年寄りから子どもたちまでが集う。学生は、高齢者から幼児までの相手をしながら、年齢に合わせた対応を学んでいく。

③花いっぱい活動

花いっぱい活動（図5）は、平成25年度の学生がチー



図5 花いっぱい活動

ムごとに、「花を植えて地域貢献」や「落ち葉を拾って堆肥作り」などの提案をして卒業した。それを受けて、平成26年度から実際に学内で花を育て、平成27年度はチームごとに育てた花のコンテストを行い、平成28年度はいよいよ地域に向けて、どのような形で地域貢献できるか計画するところまで来ている。学生は、先輩が提案した「花を植えて地域貢献」の一翼を担い、

花を枯らさないようにチームごとに当番を決め、夏休み中も水やりに登校するなどし、門の外に植えている花の水やり時には、地域の方から声を掛けられ、少なからず地域貢献している実感が持てている様子である。

2) 単発的活動

①春まつり

春まつり（図6）は、これまで六号通り商店街で行っ



図6 春まつり

ていたお祭りに学生が参加することによって、商店街の活性化に繋がっていることを目の当たりにし触発された六号坂通り商店街が、平成28年度から始めたお祭りである。平成28年4月から転籍した学生も生き生きと参加し、地域活性化の一端を担っていることを実際に体験することによって実感できた様子であった。

②せせらぎまつり

せせらぎまつり（図7）は、渋谷区社会福祉協議会をはじめ渋谷区内で活動するボランティア、地域団体、NPO、企業などが交流し、共に支え合う福祉の心を育むことで新たな地域コミュニティの構築をめざすお祭りで、平成12年に始まり今年で17回目を迎えたが、本学は平成23年から参加している。

本学学生は、フランクフルトと綿菓子を販売する出店を担当し、物を売るための店の工夫や声掛けの仕方、仲間との協力などを体験する。また、お年寄りから子



図7 せせらぎまつり

どもまで様々な年代の人との交流を通し、コミュニケーションの難しさや、反対に物が売れた時や感謝された時の喜びを実感していく。

③スポーツGOMI拾い大会

スポーツGOMI拾い大会(図8)は、5人で一組の



図8 スポーツGOMI拾い大会

チームを作り、制限時間内に笹塚から幡ヶ谷までのエリアでゴミ拾いを行い、その量と質を競争(スポーツ)しつつ美化活動(ボランティア)もするという平成25年から年に数回行われている大会である。本学学生も第2回から参加し、仲間と協力して行う活動であることから、チームワーク力が必要なことを実感している。

④夏祭り

六号通り商店街の六号まつり(図9)は、約半世紀



図9 六号まつり

前から行われ、本学学生も平成20年から参加している。本学のブースとして、フランクフルトと綿菓子の販売を行い、それ以外に商店街の出店のお手伝いをする。若い人がいると活気があり、物がよく売れると商店の人たちからは、感謝されているが、学生自身は大したことはやっていないと実感しているようである。

六号坂通り商店街の納涼祭り(図10)は、約半世紀



図10 納涼祭り

前から行われ、六号通り商店街の夏祭りに参加する本学学生の様子から、六号坂通り商店街の要請を受け、平成26年から参加している。初めは、商店街の出店のお手伝いだけであったが、3年目にして商店街からポップコーンの機械を用意するから、本学学生に出店をさせてはどうかと依頼があり、学生の働きぶりが感謝されている表れであると考えられる。また、1年次には呼び込みの声掛けすら躊躇していた学生が、自らポップコーンを片手に注文を取りに歩く姿が見られた。お祭りの出し物を見物するお客さんに、自分から進んで声を掛けコミュニケーションを取る姿に、成長を垣間見ることができた。

⑤氷川神社例大祭

氷川神社例大祭(図11)は、地元の氏神様である氷



図11 氷川神社例大祭

川神社の秋の大祭である。高齢化が進んだ地元の町内会の要請を受け、平成23年から本学学生も参加している。これは、町内の地域清掃や夏祭りに参加することで、本学学生を理解し地域の大事な神事である例大祭に参加させてもいいという、地域の人々の気持ちの表れではないかと考えられる。本学学生は、太鼓・天狗・高張提灯・手古舞となつて、お神輿町内渡御の先導役を務める。朝早くから、お神酒所で手を合わせ、町内を練り歩くことによって参加意識も高まり、地域参加、地域貢献の意識も高まっていくことが伺える。

⑥ふるさとまつり

ふるさとまつり（図12）は、平成28年に36回目を迎



図12 ふるさとまつり

えた西原地区のお祭りで、本学学生も平成23年から参加している。本学学生は、フランクフルトと綿菓子を販売し、来店するお年寄りから子どもまでを相手に、コミュニケーション力の向上を図っている。1年次には、呼び込みの声掛けもなかなかできなかった学生が、2年次になると率先して行う姿が見受けられ、成長を垣間見ることができた。

⑦ハロウィン祭り

ハロウィン祭り（図13）は、平成23年に六号通り商店街で始まったお祭りで、初めての参加学生は1名であったが、年々盛り上がりを見せ、学生が手伝ってくれるなら、ハロウィン祭りに参加してもいいという商店も現れ、20名以上の学生が商店街のお店のお菓子配りのお手伝いをしている。また、それに触発され、平成28年には六号坂通り商店街でもハロウィン祭りを行うまでになった。親たちに連れられてくる幼児や小学



図13 ハロウィンまつり

生など、普段コミュニケーションを取る機会の少ない子どもの対応に四苦八苦しながらも、だんだん慣れて笑顔を見せて対応する姿に、わずかな時間の間にもコミュニケーション力の向上と成長を見ることができた。

⑧社会教育館まつり・文化祭

社会教育館まつり・文化祭（図14）は、社会教育館



図14 社会教育館まつり・文化祭

で行われている講座や教室の文化祭で、平成28年度38回目を迎える。本学学生は、平成27年度から参加している。来館者の誘導や各コーナーのお手伝いを行い、古着のバザーでは、学生がきれいに畳んで商品を並べたことにより完売したと担当者から大変喜ばれた。しかし、学生本人にその実感があまりなく、自分の言動がどう評価されているのか自覚させ、良い方向に向上させられることが課題と考える。

5. おわりに

本学の建学の精神は、創立以来「礼儀、努力、誠実」である。この姿を体現することで、本学のある地域に受け入れられ、学生が活動することによって、地域の活性化に繋がり地域貢献となつて、ますます発展していくことになる。

平成28年度のSPOD (Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education) フォーラム2016は、『経験を学びに変える』をテーマに開催された。そこでは、経験を学びに変える教育と能力開発について、様々な知見を得られた。

今年度から生活文化コースだけではなく、臨床検査コースでもボランティア論の一環として、地域参加を行っている。SPODフォーラム2016で得られた知見を基に、学生の体験を学びに変え、地域参加の内容や評価する教員が違って、統一した評価基準を作成することによって、公平な評価を行うことができるように、今後準備を進めたいと考えている。

(参考文献)

- 1) 学校教育法第9章第108条、昭和22年4月1日施行
- 2) 大学設置基準、平成22年2月改正、平成23年度施行
- 3) www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html2016.10.24
- 4) 経済産業省「大学生の『社会人観』の把握と『社会人基礎力』の認知度向上実証に関する調査」平成21年